

慶應義塾維持会

Newsletter



2018年9月

No.11



奨学生から、感謝を込めて。

慶應義塾維持会をご支援いただきまして心より感謝申し上げます。

2018年度の維持会奨学生として採用された塾生から、感謝の気持ちをお届けします。

懇話会開催

2018年7月19日(木)三田キャンパスにおいて、「慶應義塾維持会懇話会」を開催いたしました。

懇話会は、笑顔に溢れた賑やかな懇談の場となりました。



岩沙弘道維持会会長からの挨拶。

「義塾社中一丸となって、未来の先導者として活躍されることを期待しています。」とのご挨拶をいただきました。

奨学生の代表者から今後の目標と、維持会への感謝の言葉が述べられました。

「日本のみならず、米国の薬剤師免許も取得することを視野に入れています。6年間の学生生活において、先入観を取り払い、自らの新たな可能性にチャレンジしていきたいです。維持会の皆様のご期待に沿えますよう、奨学生の名に恥じないような有意義な大学生活を実現できるよう、精進してまいります。」

(長野県出身 薬学部1年)



懇話会の感想が寄せられました。



「1時間少々の懇話会でしたが、時間が足りないといつ惜しんでしまうほど、あっという間に過ぎてしまいました。先輩から様々な業界や貴重なお話を伺うとともに、志高い奨学生に同輩として知り合うことで、新たな視座を得ることができました。この機会に得たアドバイスを存分に活かし、塾生にふさわしい高みを目指そうと思います。」

(岡山県出身 文学部3年)



大阪府出身
文学部3年

科学的アプローチによる新しい考古学を発信する 先駆者になりたいです。

① 一番興味のある授業は？

民族学考古学研究法という授業では、発掘調査で必要不可欠な光波測定器の扱い方や実測図の書き方を、フィールドワークを通して学ぶことができます。具体的には、港区周辺の遺跡や遺構の探索、歴史を積み重ねてきた三田キャンパス内の旧福澤邸跡の遺構や日吉キャンパスにある旧日本海軍の連合艦隊司令部地下壕を調査・実測しています。慶應義塾ゆかりの遺跡をフィールドにしながら、考古学の基礎的なノウハウを身に付けることができる非常に興味深いものです。

② 課外活動で力を入れていることは？

青森県と愛媛県の縄文時代遺跡、東京都の江戸時代遺跡での発掘調査では、発掘技法を学ぶと同時に、考古学のみならず様々な分野の著名な専門家との垣根を越えた交流によって新しい視点を養うことができました。今後は、パレスチナのベイティン遺跡での発掘調査、エジプトのアコリス遺跡でのミイラ調査参加などの計画があります。これからも専門性を高める努力を怠らず精進してまいりたいと思います。

③ 卒業後の進路、将来の夢は？

将来は考古学者として、いにしえの人々のあり方を通して、現代そして未来の人々の実生活に公益をもたらす考察を目標としています。考古学研究は、多岐にわたる分野とのコラボレーションによって進められています。私は、安定同位体分析などの分野において科学的アプローチによる新しい考古学を発信する先駆者となることを望んでいます。



④ 卒業後の進路、将来の夢は？



栃木県出身
理工学部4年

大学院に進学し、修士課程・博士課程を経て、博士号を取得したいと考えています。研究成果を国内外で発表し、世界に広く名を知られるような業績を残し、社会に貢献したいです。私が取り組んでいる研究は、全く新しい原理による世界初の分析装置を実現するものであり、これを世界に先駆けて開発できれば、多くの知的財産を形成できるほか、次世代の医療診断としてがんの診断等への応用が期待されるなど、社会へ大いに貢献することができます。これまでに積み重ねてきた知識や知恵を土台に、自ら考え続けることで、少しずつ新たな道を拓いていこうと思います。



沖縄県出身
環境情報学部1年

大学院に進むことを視野に入れていますが、アメリカで建築とデザインの研究を続けたいと考えており、卒業後はアメリカで建築の勉強をするという目標に向かって努力しています。ハーバード大学デザイン大学院が志望校で、将来の夢は建物をデザインすることです。周りの環境を観察しながらデザインすることに興味があり、自然と繋がる家を作りたいです。



三重県出身
環境情報学部3年

重大案件を解決に導く「ビジネス・ローヤー」として世界を舞台に活躍することを夢見ています。数多くの案件に関与して経験を積み、企業の重要な意思決定が行われている局面に立ち会うことができる企業法務分野に携わることに関心を持っており、複雑化していく社会の中で、開拓者精神を持って、自分自身でできないリーガルサービスを提供できる人材になりたいと考えています。



佐賀県出身
看護医療学部1年

老年看護の専門看護師になることです。私は、幼い頃から祖母のことが大好きで、また、知り合いでない高齢者の方でも自分の祖母や祖父のように感じられて、常に何か自分に出来ることはないかと考えていました。それから、高齢者に関わる仕事がしたいと考え、看護という職の中に老年看護の分野があることを知り、プロフェッショナルを目指したいと考えたので、老年看護の専門看護師になろうと思いました。私は将来、高齢の方が様々な疾病を抱える中で、その方にとってベストな生活を送れるような支援が出来る看護師になりたいです。そのために授業や実習に励んで基礎を固め、大学院でより専門性を磨いていこうと考えています。

維持会奨学生採用実績

維持会奨学金

経済的理由により修学が困難な塾生を援助するため、2007年に創設しました。全国の優秀な学生に慶應義塾で学んでもらうために地方出身者を優先採用しています。毎年、厳正な審査の下、人物、学業・成績ともに優れ、愛塾精神に富んだ塾生が採用されています。

※「維持会奨学金」は給付型で返済の必要はありません。

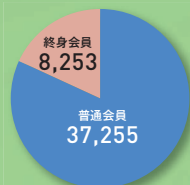
2018年度

文・経済・法・商・総合政策・環境情報学部 から 76名・各50万円
医・理工・看護医療・薬学部 から 51名・各80万円

維持会員の皆様が
奨学生を支えて
くださっています

維持会員
45,508名

2018年3月31日現在



広島県出身
文学部3年

維持会の皆様にご支援いただいていること、それはつまり、私たち奨学生の今と未来にご期待くださっているということだと考えています。そのご期待に背かないように、しっかりと勉学に励み、真摯に自分と向き合っていきたいです。

全国の優秀な塾生が
採用されています

2007年度～2018年度まで

1,003名採用



岐阜県出身
文学部3年

奨学生として採用してくださり、感謝の念に堪えません。奨学生として今後より一層勉学に励み、その名に恥じぬよう行動すると同時に、明るい未来に向かって歩んでいきたいと思います。

2017年度 慶應義塾維持会 収支決算

(単位: 円)

収入の部	寄 付 金		143,284,580
	維持会基金運用収入		77,890,409
	(1) 収入の部合計		221,174,989
支出の部	維持会事業費	奨学支援事業	73,100,000
		その他の財政支援事業	2,290,409
	管理経費	会員用三田評論諸経費	15,762,097
		事務経費	13,468,634
	(2) 支出の部合計		104,621,140
	収支差額 (1) - (2)		116,553,849
(3) 年度末維持会基金残高		4,011,074,320	

(2018.3.31付)

2018年度の維持会事業についてお知らせいたします。



(1) 収入の部

新規入会367件、継続6,068件、計6,435件の寄付金と維持会基金運用収入により221,174,989円となりました。

(2) 支出の部

奨学支援事業:「慶應義塾維持会奨学金」に73,100,000円を充当しました。

その他の財政支援事業:キャンパス施設整備資金・「福澤諭吉記念文明塾」の運営資金として2,290,409円を助成しました。

管理経費:会員への『三田評論』発送郵便料等、維持会勧誘に伴う趣意書等作成費・DM発送郵便料等29,230,731円を支出しました。

(3) 維持会基金残高

収支差額116,553,849円を全額維持会基金に組み入れた結果、基金残高は4,011,074,320円となりました。昨今の経済状況において運用益が減少する場合でも、維持会事業が遂行できるよう財政基盤を強化します。

■ 奨学支援事業「慶應義塾維持会奨学金」

416名の応募があり、計127名の塾生に支給することが決定しました。

《2017年度実績》73,100,000円 408名の応募があり、計119名の塾生に支給しました。

■ キャンパス施設整備資金

塾生の教育・課外活動等における環境を一層充実させるための施設整備に対し、維持会からこの資金を助成します。

《2017年度実績》790,409円

大学キャンパス(三田)大学院校舎6・7階大学院生研究室用事務椅子の購入費を助成しました。

■ 「福澤諭吉記念文明塾」の運営資金

慶應義塾の原点を見つめ未来貢献を志す先導者を育てるべく創立150年記念事業の一環として開講されました。維持会からこの資金を助成します。

《2017年度実績》1,500,000円 助成しました。

■ アントレプレナー支援資金

慶應義塾の知的財産権の実用化に際して設立されるベンチャー企業1社につき最大100万円の出資を行います。

《2017年度実績》0円 該当がありませんでした。



維持会奨学生からの感謝のメッセージ

(掲載内容は一部編集、抜粋しております。)

2018年度

維持会Webサイトでは、奨学生全員の感謝のメッセージを掲載しています。



授業を通して様々な考え方に触れ、 自覚と責任を持って世界に平和への思いを発信したい。

私は被爆者である祖父の影響を受け、幼い頃から戦争や核兵器をとて身近に感じ、将来は核兵器廃絶、世界平和の実現に貢献したいと強く思い続けてきました。世界に平和への思いを発信するにあたり、高度な英語力が求められるのはもちろんですが、私は何よりもまず戦争についての深い理解が必要になると思います。私は現在、授業を通して「戦争」という一つのテーマを様々な視点から学んでいます。たとえば、戦争を夜の概念として位置づけ、その発生と意義を考察する哲学的な視点や、戦時期の文献から当時の戦争に対する極端な思想形成の過程をたどる社会的な視点などです。高校までの授業では、戦争は単なる歴史的事実として扱われ、起こった原因や結果を重視するものだったので、一方向からの知識しか蓄えられませんでした。そのため、大学の授業はとても新鮮で、あらゆる角度から考察する力を鍛えることができ、日々良い刺激を受けています。レベルが高く、思考の幅を広げるのに最適な学習環境が整っている場で学ぶことのできる機会を与えてくださったことを大変嬉しく思います。

数多くいる塾生の中から採用していただいたからには、自覚と責任を持ち、これからも授業を通して様々な考え方に触れ、戦争についての理解を深め、将来の夢の実現に向けて精進して参ります。

東京都出身 文学部1年

高い技術を有した、患者を第一とする医師を目指します。

この度は慶應義塾維持会奨学生に採用していただきありがとうございます。

私が医師を目指した理由は主に3つあります。一つ目は医師への憧れです。私には、心室中隔欠損症を患っている親類がおり、彼はこれまでに何度か危険な状態となりましたが、その度に担当医の方が的確な処置を施すことで事なきを得てきました。そのような姿を見てきたためか、幼い頃から高い技術を持った医師への憧れと、同じような病気で苦しむ患者を救いたいという想いがありました。

二つ目は人を喜ばせるのが好きだということです。私は人を笑わせたり、喜ばせたりすることが好きで、将来の職を考える際にも、人を喜ばせることができるものと考えていました。

そして、患者を喜ばせることができる医師という職業はそれに通ずると考え、患者を笑顔にできる医師になりたいと思いました。

三つ目は医学という学問に興味があったということです。私はけがを負った際、その原因や治療法などを詳細に調べており、そのような時に医学という学問に興味を持ち、医学を学び、究めたいと思う自分に気が付きました。

医療に関する学問はもちろんのこと、患者を第一とし、医療技術を正しく行使できるよう倫理学や心理学といった学問も学びたいと思っています。そして、その学びが維持会より支えられたものであることを自覚し、励んで参ります。

兵庫県出身 医学部1年

災害時に自分の命を自分で守り、 生き抜けるような社会をつくっていくことに尽力したい。

大学では防災に関する研究室に所属しています。1996年から2015年の20年間に世界を襲った災害での死者数は約135万人にも達すると言われており、その中でも日本は地震大国、災害大国と言われるほど沢山の災害に見舞われ、大勢の犠牲者も出ています。何度災害に襲われても、犠牲者が出続けているこの現状を、これからは「防災大国日本」「災害に強い国」と言われるように変えていきたい、災害が起こっても死者ゼロを目指して、研究、活動をしていきたいと考えています。決して簡単なことではありませんが、災害はいつ何時襲ってくるかわかりません。その時、必ず人々が自分の命を自分で守り、生き抜けるような社会をつくっていくこと、大切な人を失い悲しむ人が出ないようにしていくことに少しでも尽力できた時、この奨学金をいただいたことへの恩返しができるのではないかと考えています。

維持会奨学生に採用していただいたことでできた時間や精神的余裕を最大限に使い、研究やフィールド活動に取り組んで行きたいと考えています。

今回支援してくださった皆様に対して恥ずかしくないよう、素晴らしい先生方、仲間達と共に学べるこの環境に感謝しながら、より身を引き締めて学業に励んでいきます。

海外出身 総合政策学部3年



慶應義塾維持会

Newsletter

No.11

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
TEL.03-5427-1545(平日9:00~17:00)
FAX.03-5427-1546
E-mail:kikin-box@adst.keio.ac.jp
<http://www.kikin.keio.ac.jp/ijikai/>

発行日 2018年9月14日
発行 慶應義塾基金室 維持会担当